

「居場所としての『家庭』を考える」

シンポジウム



第1回

こどもにとっての「家庭」という 居場所の大切さ

こどもの生活時間が変化する今、こどもの育ちを支えるファーストプレイスとしての「家庭」に目を向け、どうすれば家庭がこどもにとって安心できる居場所であり続けられるのか？
家庭を支える行政・企業・地域それぞれの役割と可能性について考えます。

日時

2026年

10月8日(木)

14:00~16:00

視聴申込

事前申込制(参加費無料)

※先着1,000名

QRコードよりお申し込みください。



視聴申込期限: 10月4日(日)

開催形式

オンライン
(Zoom ウェビナー)



対象

こども、保護者、こどもや家庭を支える方々
(行政・教育関係者、子育て支援関係者、研究者、
企業の人事・サステナビリティ担当者など)

プログラム

第1部 講演 / 第2部 パネルディスカッション

こどもの生活時間の変化や、こどもの育ちに大切なこと、働く親にとってのこどもと過ごす時間の価値などの観点からご講演いただき、家庭を支えるために社会ができることについて考えます。



開会挨拶: 五十嵐 隆 (国立成育医療研究センター 理事長)

講師・パネリスト: 佐藤 昭宏 (ベネッセ教育総合研究所 主席研究員)

野井 真吾 (日本体育大学 子どものからだ研究所 所長)

山口 有紗 (国立成育医療研究センター、子どもの虐待防止センター、川崎市人権オンブズパーソン)

村上 芽 (日本総合研究所 創発戦略センター チーフスペシャリスト 未来社会価値研究所長)

ファシリテーター: 竹原 健二 (国立成育医療研究センター 成育こどもシンクタンク・こども子育て未来ラボ室 室長)

登壇者紹介（敬称略）：



佐藤 昭宏（さとう あきひろ）

ベネッセコーポレーション入社後、ベネッセ教育総合研究所にて、小学1年生～高校3年生までの親子を対象に、生活習慣・学習意識・人間関係の変化が子どもの成長や自立にどう影響するかを明らかにする実態調査や、学習科学の研究知見に基づく教材開発などを行っている。社外では文部科学省「専修学校の質保証・向上の推進事業」「地域産業中核的人材養成事業」の推進委員や日本冒険遊び場づくり協会 情報研究センター研究員なども務める。



野井 真吾（のい しんご）

日本体育大学大学院修了、体育科学博士。学校保健学、教育生理学、発育発達学、体育学を専門として、子どもの「からだ」「心」「元気」「健康」「遊び」等をキーワードにした研究活動に従事。現在、日本体育大学教授、子どものからだと心・連絡会議議長、日本教育保健学会理事長、日本体育・スポーツ・健康学会理事、日本発育発達学会理事などを務める。主な著書に『子どもの“からだと心”クライシス』（かがわ出版）など多数。



山口 有紗（やまぐち ありさ）

高校中退後、イギリスでの単身生活や中卒での就労、国際関係学部での学びを経て医師となる。ジョーンズ・ホプキンス大学公衆衛生学修士、博士課程在学中。地域の児童相談所などで相談業務に従事しながら研究や講演などを行う。国立成育医療研究センター共同研究員、川崎市人権オンブズパーソン。元こども家庭庁アドバイザー。近著は「子どものウェルビーイングとひびきあう——権利、声、「象徴」としての子ども」（明石書店）、「きょうの診察室：子どもたちが教えてくれたこと」（南山堂）。



村上 芽（むらかみ めぐむ）

京都大学法学部卒業後、銀行勤務を経て2003年株式会社日本総合研究所に入社。専門分野はESG企業調査、SDGsと企業経営、子どもの権利とビジネス。子どもを重要なステークホルダーと位置付け、子どもの視点をよりよい社会づくりに繋げる「子どもコミッションイニシアティブ」を推進。主な著書に『図解SDGs入門』『少子化する世界』などがある。

“三井住友海上・成育医療研究センターこども子育て未来ラボ室”について

2025年7月に、成育こどもシンクタンク内に新設された寄付研究部門です。
三井住友海上と成育医療研究センターが連携し、共助の観点を踏まえたこどもや子育てを取り巻く環境の向上につながる様々な社会実装を推進しています。



こども子育て未来ラボ室
ご紹介

お問合せ

開催前日までに視聴用のURLが届かない場合は、下記へご連絡をお願いします。

国立成育医療研究センター 成育こどもシンクタンク

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2丁目10-1

Tel：03-3416-0181（内線 4261） E-mail：seiiku-thinktank@ncchd.go.jp